

# 一年学年だより

No. 5【9月号】

令和6年9月2日発行

## 本気度

忘れもしない。17歳のクリスマスイブの日、私たちホッケー部は毎年恒例の通称クリスマス遠征に旅立っていた。雪がチラつく中での試合。私は守備の要として、九州の強豪チームを相手に、何度も強烈なシュートを浴びながら奮闘していた。再び相手がシュートを打ってきた。ロースコアで戦っていたので、この攻撃も防いでみせると身体を張ったのが、間違いだった。気持ちだけ先行して、シュートコース正面に突っ込んでしまったのだ。結果、強烈シュートを顔面で止め、大出血。（野球のバットスイングで殴られたのと同じぐらいの痛みです、たぶん。）広島大学病院へ救急搬送され、前歯3本骨折・唇20数針縫合という大怪我をしてしまった。まだ口で済んだが、これが頭部だったらと思うとゾッとする。

そのまま私は一人フェリーに乗り、帰路についた。両親に何と言われるのか、少しビクビクしていたが、全くの無反応。（「そんな危険なスポーツやめなさい！」「だから〇〇しなさいって言ったのに。」）というような言葉を予想していた。）結果、高校生から社会人まで14年間ホッケー選手としてプレーを続け、出産を経て、現在指導者となっている。

前歯3本骨折の代償は大きく、現在まで前歯の治療費に数百万円は支払っている。自分の力で生活していたわけではなかったため、家族の理解と支援には頭が下がる。なぜ私は全く反対されることもなく、ホッケーを続けることができたのか、その理由を親に聞いてみた。

「本気でやっていたから。辞めさせる理由も、反対する理由もないでしょ。」

そう、私は本気でやっていた。やりたいことを認めてもらうために、勉強も学校生活も、全てにおいて本気だった。登校中に自転車でバイクとぶつかったり、体調不良でおう吐しながらも、学校は休まなかった。（そんな状態で登校したので、保健の先生には迷惑かけましたが……。でも、3年間皆勤です♪）私の本気が伝わり、大好きなホッケーを続けることができ、行きたかった県外の大学へも快く送り出してもらい、念願の教職に就いている。

親や先生に支えてもらうことや助けてもらうことは、当たり前なことではない。皆が本気になれば、周囲の気持ちや行動は変わる。全てはあなたたちの「本気度」だと思う。

（104HR担任）

## 旅行

旅行が好きで年に数回は旅行に行く。国内は大学1回生の時に九州をひとりで1週間旅したことが始まりで、東北地方だけはまだ行ったことがない。近いうちに機会をとらえて行くことが今から楽しみである。海外に初めて行ったのは大学4回生の時で、アメリカを「地球の歩き方」という本を片手に40日間ひとりで旅した。国土の広さと圧倒的なパワーに、この国と戦争して勝てると思ったことに驚きを感じた。ただ、戦争は侵攻されない限り勝ち負けに関係なくするべきではないのだが。

今までに11回海外に行ったが、17年前に行った中国では発展しそうな雰囲気を感じた。その後急速に発展し、今ではアメリカを追い越そうとしている。また、上海の豫園ではデジタルカメラをすられ油断できないことを思い知らされた。最近行ったベトナムでは高度経済成長の頃の日本を感じた。これから自分の国が成長していくことを信じている人々のまなざしが印象的であった。また、バイクや自転車が整然と並べられ、勤勉さと几帳面さが感じられた。ただ、最近はモラルが低下したといううわさもあるが。オーストラリアは国土が広く、他国と国境を接していないことも影響しているのか、おおらかで陽気な人が多いように感じた。ただ、キャッシュレスで現金が使えない所があったことには驚いた。

その他の国も驚きと発見の連続であった。まさに「百聞は一見に如かず」である。どの国も英語が話せればコミュニケーションがとれるが、自分の英語力のなさに、もっと英語を勉強していたら旅行がさらに楽しいものになっただろうといつも後悔している。今はスマホなどで翻訳もできるが、味気ない会話となり自分の言葉で話せるほうが100倍いい。これからは今以上に英語が必須になると思う。数学の教員が言うのもおかしいが、みなさんは英語をものにしてください。（104HR副担任）